

## 標本作製法

# フリーズドライを利用した簡易剥製標本作成方法（その3 両生・爬虫類編）

三宅 隆

前2回で、鳥類と哺乳類の簡易剥製法を紹介したが、今回は、両生類（カエル・サンショウウオなど）爬虫類（カメ・ヘビ・トカゲなど）について紹介する。

使用したフリーズドライ（真空凍結乾燥器）ADVANTEC 240DAドライチェンバー3段（写真1）

準備する物：解剖器具（メス・ピンセット）  
脱脂綿、防虫・防腐剤、電気ドリルなど

作成前に、標本としてのデータ（年月日、場所、採集者など）をチェックし、体測する。

カメ類

1. 腹甲側の中央に、いくつか電気ドリル

で、5～10mmくらいの穴（カメの大きさによって変える）を開け、腹腔内臓器の水分が出るようにする。（写真2）

防虫、防腐剤（防虫、防腐処理の標本粉 ほう酸2：明礬1：樟脳又はパラゾール1を粉末にして乳鉢にて乳鉢でよく混ぜる）を腹腔内に薬匙などを使って適量入れる。

2. 甲羅と頸の間や尾の付け根の皮膚にメスで切れ込みを入れ、皮下や筋肉の水分の出口を作る（写真3）。



3. 体形を整えて、フリーズドライの器械に入れて、最低1週間以上凍結乾燥をする(写真4クサガメ)。

注意: カミツキガメの場合、尾が長かったので、付け根で切り、別々で凍結乾燥をして、乾燥後に接着した(写真5)。

#### ヘビ類

1. 腹部に5cmおき位にメスを入れ、そこから内臓を取り出す(写真6、7)。そこへ、上記の防虫・防腐剤を腹腔内に薬匙などを使って適量入れる。

2. 取り出した後、脱脂綿を細長く丸くして、その穴から入れて大きさを調整する(写真8)。

3. 形を整えて、フリーズドライの器械に入れて凍結乾燥する(写真9シロマダラ)。

\*トカゲ類もほぼ同様にする。

#### カエル類

1. 腹部を切開し、内臓器を取り出す。そこへ、上記の防虫・防腐剤を腹腔内に薬匙などを使って適量入れる(写真10、11)。

2. その後脱脂綿を少しずつ入れて腹腔を埋め、元の腹部の大きさになるように詰め込む(写真12)。

3. 詰め込んだのち腹筋と皮膚を合わせ、ボンドを中に入れて穴を閉じる(写真13)。

4. 形を整えて、フリーズドライの器械に入れて凍結乾燥する(写真14ウシガエル)。  
\*イモリ・サンショウウオなども同様とする

\*どうしても干物感が拭えないので、アクリル絵の具などで、着色することもある。  
完成したカエル類(写真15)

完成したイモリ・サンショウウオ類(写真16)

#### 利点

皮膚を剥がして筋肉を取り除く手間と技術がなくて済み、簡単な作業で完成し器械に入れられる。

#### 欠点

器械の大きさ(内径23cm、高さ10cm)から、大きいものは入れられない。

器械に入れる前にきちんと姿、形を整えないと、完成後は殆ど直せない。

今のところ、標本害虫による被害はないが、今まで作成して最高6年であるので、今後どれくらい標本が維持できるかは不明。湿気には弱いと思われるので、保管の仕方が大事と考える。特にカメ類の場合、甲羅内の臓器が残っているので、保管には注意が必要と思われる。

